

2013/5/15

TEASY 5-6 章

担当者: Y.M.

## 5. テストフォームの作成と履歴の保存

### 5.1 テストフォームの作成: 選択した項目を自動的につなぎ、テストと解答シートの word ファイルを作成

[テスト作成画面]: テストに使用する項目にチェック。カテゴリや難易度の指標を付けている場合は、それを参考に目的に合った項目を選択。また統計を出して全体のカテゴリのバランスや難易度の平均を確かめる。必要があれば項目潤も変更可能。

[create]: (1)~(5) のファイルが自動的に仕上がる。

- (1) **選択した項目が繋ぎ合わさった学習者用の試験問題ファイル** (大問番号も自動的に割り振られる): 出来上がったテストを編集する必要がないように、元の word ファイルの形式を整えておくことが重要。
- (2) **つなぎ合わさったスクリプト & アンサーファイル**
- (3) **excel で選択した問題の付属情報が入った項目一覧表** (e.g., 項目名、カテゴリ、難易度、解答、問題テキスト)
- (4) **解答用紙**: オプションで問題番号のついた excel シートを作成可能。セル幅を適宜広くし、必要に応じて下線を引いて体裁を整える。
- (5) **付属資料ファイル**: オプションをクリックし、付属資料ファイルも引き出すことができる。

### 5.2 テストフォーム履歴の保存 (任意): [save] をクリックしてフォーム名を付ける

- (1) [テストフォーム一覧]: テストを再現できる。また新たに一部項目を差し替えたり組み替えたりして、別のテストフォームにすることも可能。
  - (2) [テストフォーム履歴の保存]: 該当フォームの利用履歴が 1 回増える → 同じ項目を使いすぎてないか確認
  - (3) テストフォームを再現し、統計昨日で難易度を産出する。それを参考に同じ難易度のテストフォームを作成することも可能。
- ※ テストフォームの難易度などの統計を産出する場合、項目をテストバンクに入力する際、指標を決めて項目難易度を登録しておく必要がある。

## 6. 項目バンクの活用—小テストで学習定着を図る—

### 6.1 効果的な小テストの条件

- (1) **学習した内容がテストに出題されている** (妥当性を満たす)
  - ・ 学習者のヤマが外れないように出題し、勉強した学生は高得点が取れるようにする → 学習意欲が増す
  - ・ テストの出題範囲が学習者の手に負える方が、投げ出さず勉強する
- (2) **出題形式や評価方法を伝える**
  - ・ 教師が意図した知識や技能を伸ばすテスト勉強をさせることができる
  - ・ 学習習慣が育っていない生徒やレベルの低い学生ほど、詳細な出題形式や評価方法を伝えた方が勉強する。
- (3) **繰り返し学習を促進させる**
  - ・ テストで繰り返し学習することで、技能や知識が定着する
  - ・ ルール化 → 学習者が計画を立てやすく、また習慣化しやすい (ex.) 各単元の終了時にテストを行う
- (4) **易しいテスト項目から難しい項目へと出題する**
  - ・ 理解能力より表現能力を問う問題の方が難易度が高いので、徐々にこの 2 つの能力のバランスを変える
- (5) **学習に良い波及効果を与えるテストやフィードバックを心がける**
  - ・ テスト結果を伝えるだけでなく、フィードバックの方法や採点結果を伝えた後どうするかという問題がある (ex.) 小テスト後に学生同士で答え合わせをする → 教師の負担が減る、学生が再度学習する機会が与えられる

## 6.2 小テストの実践例

### 6.2.1 繰り返し学習を意識した小テスト

#### (1) 問題の順序を入れ替える

- ・小テストの結果が悪かった場合に、問題の順番を入れ替えた同じ出題範囲・形式のテストで再度学習を促す。評価点は1, 2回目の平均点とする。

#### (2) 徐々に新しい問題と入れ替えていく

- ・ほぼ毎週行う小テストにおいて、よくできていた項目を新しい項目に変え、よくできていなかった項目を再度、あるいは少しだけ変更して出題する。それでも習得していない項目があれば、3回目のテストにも混ぜる。

### 6.2.2 出題形式をインプット重視からアウトプット重視へ

#### (1) 選択問題から記述問題形式へ

- ・選択問題から選択肢を削除し、解答を書かせる形式にする。
- ・テスト作成が容易で、一度授業で解いた問題ならあまり外れた解答もなく、相互採点も可能。
- ・意味に焦点を向けつつ焦点になる構文を使って解答させることになり、インプット技能からアウトプット技能につなげることができる
- ・聞きながらメモを取る、次の問題に移る前に早く解答するなど、テストストラテジー (test-taking strategy) を養うことができる

#### (2) サマリーライティングやリテリング課題へ

- ・単元の重要語句や構文を書き出し、それらをすべて使用して要約を口頭・筆記で行わせる。
- ・口頭の場合、ペアでの評価などの工夫が必要

#### (3) クローズテストの空欄を増やす / ヒントを減らす

- ・2回目は1回目より多くの単語を抜き、単語だけでなくフレーズを抜いておく。または空欄に必要な日本語訳を抜いておく方法もある。いずれにしろ、文を暗記するほど読み込まないと満点が取れないように作成する。

### 6.2.3 実施と評価の工夫

#### (1) 副読本など課題の確認テスト

- ・読解力養成方法の一つに多読 (extensive reading) があるが、時間がかかるので graded reader を与え授業外で進める場合が多い。これを教師が確認することは、読む習慣を身に着けることにつながる。
- ・確認方法として、どの物語でも通じる一般的確認テストシートに答えさせる、要約やレビューを書かせる、出版社が提供しているワークシートを利用する、などがある。

#### (2) 小テスト後のポートフォリオ

- ・学生自身で出来なかった箇所や勉強したい箇所を明らかにさせ、短期的・長期的にどのように改善・学習していくか具体的な計画を練らせる。この記録をファイルにしたものをポートフォリオと呼び、ときには教師のフィードバックが有効である。

#### (3) 共同による評価

- ・評価をグループのメンバーの得点の平均点とする。うまくいけば仲間同士の指導を促し、出来ない生徒はできるように、出来る生徒はより学習の定着を図ることができる。

#### (4) 得点の工夫

- (ex.) 発音やイントネーションの練習を促すため、音読テストの点数を合格すれば100点、不合格は0点と極端に設定する。

**コメント [YM1]:** 確かにうまく機能すれば効果を発揮すると思われる。しかし以下のように、逆効果になってしまう危険性も考慮する必要がある。

- ・出来る生徒は自分が好成績をとっても他のメンバーによって評価が下がってしまい、モチベーションがそがれてしまう恐れもある。
- ・できない生徒が過度な責任感や劣等感を感じてしまう。

**コメント [YM2]:** Discussionの際、これではあまりに極端すぎるのではないかという意見も上がった。

→ 心理的に100点と0点の差は大きいので、何度も音読を練習してチャレンジする生徒が増える可能性がある。

### Discussion

- 自分は同じ問題を何度も繰り返し解くタイプか、それとも次々と新しい問題に取り組んで量をこなすタイプか?
- 本授業の受講生は同じ問題を繰り返す方を好む傾向にあった。
- ・ 心理的な問題: ひとつの問題集を完全に学習するまで繰り返した方が、効果的だと考えている。
- ・ 教育制度上の問題: 大学入試などは知識を問う比重が大きいため、学習方法も繰り返し復習して完全に身に着ける方が好まれる可能性がある。実際に文系科目は表現力よりも知識を問われる方が多く、また数学など理系科目でも解法パターンを暗記するという学習方法が必要になる場合が多い。